

Withコロナ時代で変わる働き方とサービスの形

平和堂グループはお客様の暮らしのそばに寄り添い続けるために、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全安心な売場の提供に努めています。



お客様、そして従業員の安全を守る

新型コロナウイルス感染症対策

刻一刻と変化する状況に迅速に対応

2020年2月、国内での感染拡大に備えて対策本部を設置し、お客様と従業員の安全のため、また店舗を継続的に営業するために、様々な取り組みを行いました。

店舗を運営するうえでは、感染リスクを低減させるために、店内に消毒液を設置し、フィジカルディスタンス※1を保つ啓発ポスターを掲示するなどしました。

また非食品の売場を中心に、通常より1~2時間、営業時間を短縮することで他部門などへの応援体制を組み、食品の品出しやレジ業務など、部門の壁を越えて連携しました。

また対策本部では、4月から従業員に向けて「新型コロナウイルス情報便」を配信。感染リスクが高まりやすい場面や、手洗いの方法などについての情報を発信し、従業員の感染予防対策への理解を深めました。

※1 フィジカルディスタンス
感染症の拡大防止のため人との距離を大きくとることを、日本では一般的に「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」といい、欧米では公衆衛生学用語である「ソーシャルディスタンス（社会的距離の確保）」といふことが多い。しかし、WHO（世界保健機関）は、人との心のつながりは離れないように促すため、「フィジカルディスタンス（身体的距離の確保）」に言い換えている。



▲従業員向け新型コロナウイルス情報便

VOICE



健康サポートセンター
統括産業医 河津 雄一郎

未知のウイルスとの戦い

全く新しい感染症なので、医学的な情報が不足する中、国内外の論文や研究機関等の発表を参考にしながら手探りで対策をはじめました。医学的な視点だけでなく、社会的孤立や感染者差別が起きないことにも心を砕いています。

安心してお買い物できる売場づくり

地域の皆様に安心してお買い物をしていただくために、店舗では様々な感染防止の対応を行っています。売場ではカートなど共有箇所の定期的な消毒作業、クッキングサポートサービスの試食の中止。レジでの対応については、透明シートの設置や金銭授受の際のコイントレーの使用、必要に応じてフェイスガードや手袋の着用などを行っています。またお客様からのお声を反映し、サッカー台に設置していた指を湿らせるためのスポンジをアル

コールタイプのボールへ変更するなど、迅速かつ徹底した安全対策を実施しながら営業を続け、生活インフラとしてお客様の生活を支えられるよう努力を重ねています。

新型コロナウイルス感染症対策について、お客様から貴重なご意見を頂戴する一方、営業を続ける店舗や従業員に対し、「営業してくれてありがとう」「対応が早くて感心しています」などの、感謝のお声も数多く頂戴しました。

新型コロナウイルス感染症対策

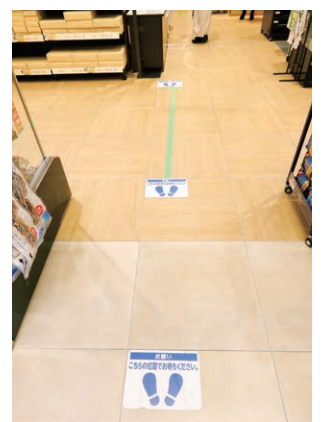
1 レジでの飛沫感染防止シート



2 手指消毒用アルコールスタンド



3 フィジカルディスタンスフロアシール



4 ショッピングカゴの消毒



5 サッカー台の飛沫感染防止シート



6 サッカー台のアルコールタイプのボール



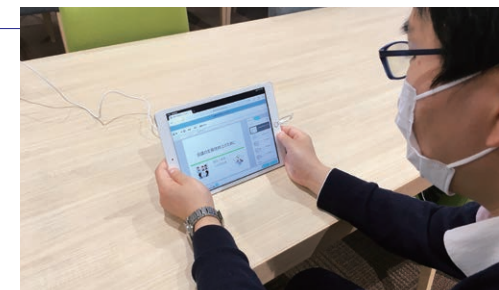
誰もが安心して働ける職場づくり

コロナ禍における働き方の整備

社員教育の変化

会議や研修、勉強会に変更・中止を検討し、一部はWEB形式に変更して、社内での感染防止に努めました。各店舗にタブレットを配備し、集合形式での社員教育ではなく、2018年5月から導入しているeラーニング※2を活用して、売場の社員が各自で受講できるように環境を整備しました。

また2020年10月には、平和堂で初めてオンラインでの内定式を開催しました。



▲タブレットを使ってeラーニングを視聴

※2 eラーニング
パソコンやタブレット、スマートフォンなど情報技術を用いて行う学習のこと。



▲オンラインによる内定式の様子

テレワーク勤務規程の制定・雇用制度の改定

2020年4月7日の緊急事態宣言の発出を受け、出社する本部の社員が半数になることを目指し、在宅勤務へ取り組んできました。10月には在宅勤務に関する規程を定め、勤怠システムなどの社内設備も徐々に整備しました。



▲WEB会議の様子

また小学校などの臨時休校などにより、保護者が仕事を休まざるを得なくなった場合、特別休暇の取得を認めるよう対応しました。また妊娠中の社員に対しても、希望があった場合には、通常より前倒して産前休暇を取得できるようにしました。

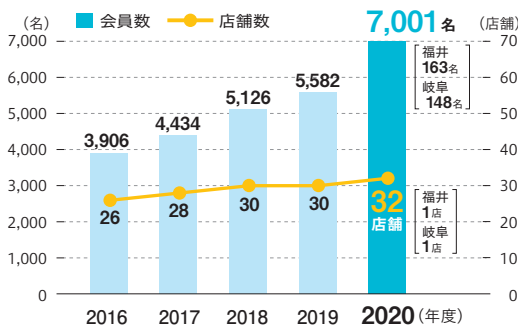
よりお客様の身近な存在を目指して

平和堂ホーム・サポートサービスの拡充

コロナ禍で利用が広がる「宅配サービス」

暮らしに欠かせない食品や日用品のお買い物。新型コロナウイルス感染症対策を考えて店頭でのお買物を控えたいというお客様が増え、2020年3月から5月までの3か月間で入会者数が前年比120%になるなど、宅配サービスの価値を再認識することとなりました。また、お客様にさらに安心してご利用いただくために、お届けの際には配達員がマスクと必要に応じてフェイスガードを着用、アルコールによる手指消毒を行うなど感染

会員数と取扱い店舗数の推移



ホーム・サポートサービスエリア

滋賀県内全域、
福井県鯖江市・越前市、
岐阜県揖斐郡大野町



ホーム・サポートサービス
スタートから10周年！
彦根銀座店では
記念品を
贈呈しました！



▲宅配サービスの様子

予防対策を徹底しています。

また、滋賀県の要請により新型コロナウイルスに感染した自宅療養者への食材手配も行っており、市の見守り協定締結と同様にホーム・サポートサービスが地域の安全安心な暮らしを支える一翼を担っています。

VOICE

ホーム・サポートサービス事業について



岐阜県 大野町長
宇佐美 晃三様

みなさまこんにちは。岐阜県大野町長 宇佐美 晃三でございます。
平和堂様のホーム・サポートサービス事業については、東海地方初の試みとして、大野店から事業展開していただきました。当町としては高齢者の見守り協定を平和堂様と締結していただき、高齢者の支援と新型コロナウイルス感染症の対策として、65歳以上の独居世帯、高齢者のみの世帯の必要な方に、ホーム・サポートサービスの登録に係る費用を町で助成できる仕組みを作らせていただきました。

今後の高齢化社会の到来に向けて、行政だけでなく、民間のサービスもうまく利用しながら、高齢になっても安心して暮らしていけるまちづくりを目指していきたいと考えております。ホーム・サポートサービス事業もその一翼を担っていただけたらと思っております。

サポートエリアを福井県・岐阜県へ拡大

2019年度にサポートエリアが滋賀県全域となり、県内のお客様からは大変ご好評をいただいていたのですが、平和堂が店舗しているその他の県においても過疎化や高齢化が進み、お買い物に不便を感じているという地域のお客様から、宅配サービスを提供してほしいというご要望を多くいただいていた。そこで、こうした社会的課題を解決する取組みとして、サポートエリアを福井県や岐阜県まで拡大し、一部地域から本サービスをスタートさせました。



PICK UP!

コロナ禍で変わるサービスの形

新型コロナウイルス感染症の拡大は従来のサービス提供のあり方にも大きな影響を与えました。「3密」を避けるために、観光やイベントなどが休止となる中、平和堂ではサービスの形を変え、新たな価値を創造しています。

1 オンラインツアーの実施

コロナ禍においても旅行の楽しさを伝え、旅に出るきっかけをつくりたいと考え、新しい試みとして自宅にいながら旅行をするオンラインツアーを企画しました。お金と時間をかけず手軽に旅の臨場感と感動、おいしさを味わっていただけることや現地の生産者様との「コミュニケーション」をお楽しみいただけます。オンラインツアー後に実際に足を運びたい方は、そのまま現地に行くツアーの申込みをしていただけるのが当社オンラインツアーの特徴です。



▲特設スタジオから生配信



VOICE



地域共創事業部 旅行課
藤本 みな子

2月11日に第1回目として、滋賀県高島市の川島酒造様とタッグを組み「自宅から滋賀の酒と旅in川島酒造」を開催いたしました。あらかじめ自宅に届くお酒やおつまみセットをご用意し、当日は司会者・現地リポーターとお客様とのやり取りをオンラインで実施。画面越しでは参加者の表情も読み取りにくく、参加者の方にきちんと伝わっているか、参加者が楽しめているか、音声の途切れや紹介する内容など課題はありますが、今後も旅を通して、地域共創の取組みを進めます。



お客様の声

前もってお酒が届くとももちろんワクワクしますが、ツアー前に手順など丁寧な案内が届いたので、それも気分を高揚させてくれました。酒造内で当日に行われていない工程も、動画で見られたら良かったと思います。画面から参加するツアーでも、現地と会話ができることで距離が縮まることがわかりました。

お客様の声

平和堂さんでないと見られないようなツアー(農家・漁師などの生産者を訪ねるとか、バックヤードを見るツアーなど)があれば面白いですね。

2 オンラインを使ったイベントの実施

店舗でのリアルイベントが自粛になる中、地元のお客様とのコミュニケーションを図る企画としてビデオ会議アプリ「Zoom (ズーム)」を使い生配信でリクエストライブを開催。会場に大型モニターを設置し、会場とスタジオ(出演者)をつないでお客様からいただいたリクエスト曲を順次歌唱し大いに盛り上がったイベントとなりました。

イベント開催件数 (4店舗) **8** 回 観覧者数 延べ **400** 名



▲リクエストライブの様子

平和堂を進化させる、 新たな挑戦

平和堂グループは「地域共創」の理念を成長戦略の一つに掲げ、「地域社会の課題」「地球規模の課題」を解決する新たな取組みに挑戦しています。



持続可能な農業の実現を目指して、アグリ事業に参入

平和堂ファーム開場

地域とともにおいしい未来を育てます

2020年8月、平和堂は「地域共創プロジェクト※」として、滋賀県野洲市に新たに「平和堂ファーム」を開場しアグリ事業を開始しました。滋賀県の経済の中心の一つであり重要な産業である農業が抱える様々な課題をクリアしながら、持続可能な農業の実現を目指しています。

※ 地域共創プロジェクト
地域の持続的な成長に貢献することが平和堂の成長につながるという考えの元、同じ志を持つ企業や地域の方々と一緒に連携し地域課題の解決に取り組むことで地域を活性化し、「地域の健康」を実現していくことを目的としたプロジェクト。

環境にも働く人にもやさしい農業

平和堂ファームでは、滋賀県内で需要の高いいちご、ミニトマト、小かぶを育てています。ハウス内の温度や湿度、二酸化炭素の濃度をモニタリングし、栽培に適した環境制御を行う「スマート農業」に取り組みながら作業の効率化を目指しています。また、「形が悪い」というだけで鮮度や品質にまったく



従業員数：9名（うち、正社員3名）2021年3月現在

堤園場	農地面積：約91a（9,100㎡） 栽培方法：施設栽培（ハウス） 栽培品目：いちご、ミニトマト、小かぶ
吉川園場	農地面積：約25a（2,500㎡） 栽培方法：露地栽培 栽培品目：小かぶ

地域農業が抱える課題とアグリ事業の目的

課題	目的
●生産者の高齢化 ●後継者不足による休耕地の増加	地域農業を応援
●食品ロスの削減 ●気候変動による農産物の供給が不安定 ●輸送によるCO ₂ の排出	安全・安心・エコ商品の安定供給



スマートフォンにダウンロードしたアプリを使い、いつでもどこでもハウス内の環境をモニタリング・制御しています

問題のないものをお値打ちに店舗で販売したり、6次化するなど「食品ロス削減」といった課題も視野に入れながら、次世代に適した持続可能な農業を展開しています。



▲平松社長と平和堂ファームのメンバー

VOICE

平和堂ファームを通じて地域に貢献



平和堂ファーム長
延澤 太

平和堂ファームは地域農業の活性化のお役に立てる事業を目指し、安定的に、安全・安心な農産物を提供できるように取り組んでいます。将来は農業を志す人を支援し、営農技術を学べる体制を作り上げていきたく準備を進めています。平和堂ファームで働く人々が「平和堂ファームで働けて良かった」と周りの人に自慢できるような農場となり、そこから新規就農者が増え、地域が活性化し、明るい未来へつながっていくことを願っています。



平和堂ファーム3つの約束

安全安心

平和堂ファームの農産物は厳密な生産管理体制のもと生産し、日々お届けします。化学合成農薬、化学合成肥料の使用量を削減し、環境にやさしい農業に取り組みます。

新鮮

収穫後直ぐに店舗に納品し、新鮮な農産物をお届けします。

地域貢献

農場運営を通じて地域に貢献できるように努めます。

新たな価値創造、「地域共創」を進化させた店舗づくり

平和堂石山がオープン

地域に根差した店舗づくり

2020年11月、滋賀県大津市に「平和堂石山」を新規オープンしました。1970年から約50年にわたり営業を続けた旧「平和堂石山店（2018年閉店）」に代わり、地域のお客様にとって、近くて毎日便利な店舗となれるよう「MY日」「集居」「健幸」を店舗コンセプトにしており、地域の皆様が集えるコミュニティの場や、健康を基軸としたライフスタイルを提案することで、石山の街全体が明るく元気になるためのお手伝いをします。

VOICE

地域を盛り上げるお手伝いを



平和堂石山
店長 國松 正義

平和堂石山は地域のお客様のお役に立つ便利で楽しいお店になるため、最高の「おもてなし」を実現してまいります。毎日イベントの実施や、SNSを使った店舗や地域情報の発信により、居心地の良い空間や地域コミュニティの創出に取り組みます。



▲地域との新たな絆づくりのため、地域の子ども達と作成した地元唐橋焼の「陶板手形」のレリーフ



▲石山寺や瀬田の唐橋など石山の街並を描き、「地域共創」をイメージした正面入口

地域とのつながりを重視したお店づくり

店舗のコンセプトを達成するため、売場づくりからイベントなど、様々な取り組みを行っています。

1 健康をサポート



お客様が安心して食品を購入できるよう、デリカ売場は平和堂初の全面ガラス張りになっています。



鮮度や美味しさにこだわった商品を取り揃え、お客様の健康的な生活をお手伝いします。

2 毎日イベントの実施とSNSでの情報発信



様々なお客様をターゲットにしたイベントを実施し、どんなお客様にとっても居心地のよい店舗づくりに努めています。

平和堂石山の公式Instagramアカウントで店舗や地域情報などを発信し、お客様との交流を図っています。

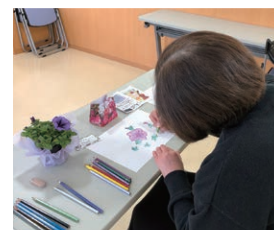
3 ライフスタイルを提案

美容をはじめ、健康についてのご相談などお客様のご希望にあわせてアドバイスしています。



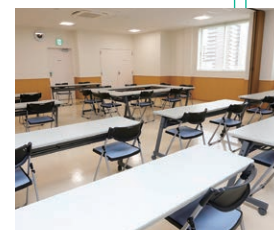
4 地域の魅力を継承

カルチャー教室「ビワのWA!」では、滋賀の歴史・文化を学び、地域の良さを伝えています。



5 地域の交流の場をご提供

カルチャー教室などを行うコミュニティスペースとして、地域の皆様にご利用いただけるお部屋です。



「ものを大切にできる文化」を広めたい

食品ロスをゼロへ

食品ロス削減の啓発

日本の食品廃棄量は年間約1,800万トン。その中で売れ残りや食べ残しなど、食べられる状態なのに廃棄される「食品ロス」は632万トン、うち248万トンが家庭で発生していると言われており、食品ロスの問題は大きな社会問題にもなっています。



家庭では「買いすぎない」「作りすぎない」「食べきる」の3点を意識することが重要で、平和堂ではご来店のお客様にもあらためて食品ロスについて考えるきっかけにさせていただくために、店頭で食品ロス削減啓発を行っています。

食品ロス削減啓発への取り組み

1 レシピ紹介冊子「美味食彩」での特集

「買い物」「調理」「保存」の3つのテーマで、家庭で身近にできる食品ロス削減に役立つ「コツ」を特集して紹介しています。



3 クッキングサポートによる提案



冷蔵庫に残りがちな食材の使い切りメニューや、食材の調理方法をスタッフが考案し、店頭で提案しました。

2 食品ロス削減啓発掲示・家庭での保存方法の紹介



平和堂作成の店頭ポスターや、平和堂全店で共通デザインのPOPを売場に掲示。POPについているQRコードを読み取ると、野菜の保存方法など役立つ情報をご覧いただけます。

4 平和堂公式V-Tuber「鳩乃幸」による動画配信



店頭に設置しているデジタルサイネージにて、食品ロス削減を呼びかける動画を配信しています。

食品ロスをなくす販売方法と商品開発

近年、廃棄が問題視されている恵方巻について、少しでも食品ロスを削減するために、平和堂では廃棄削減への協力をPOPやチラシに明記して呼びかけるほか、人気商品の割引や予約限定商品の設定による予約強化を図り、製造・販売量を管理して食品ロス削減につなげています。また原料廃棄にならないよう定量の原料を採用、食べきりサイズ商品の開発といった食材を使いきる工夫をしてお客様に提供しています。



今年の節分の取り組み結果

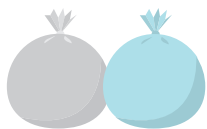
販売数量前年比

122.6%



廃棄数量前年比

64.2%



「もったいない」を「ありがとう」に。

食品ロスは、食品を焼却処理することによる環境負荷があるだけでなく、本来食べることのできる資源を有効に活用できていないことも問題です。そこで購入した食品が余ってしまう場合「フードシェアリング」をして食べ物をムダにしない取り組みにも協力しています。

1 フードバンクポストの設置

滋賀県彦根市内の平和堂グループ3店舗（ピバシティ彦根、アル・プラザ彦根、マルゼン彦根店）に、「フードバンクポスト」を設置し、集まった食材はこの活動を運営するフードバンクひこね様を通じて、市内の子ども食堂やコロナ禍で「食」の確保が困難な方にお届けしています。



2 フードドライブの運用

家庭で余っている食べ物や日用品を持ち寄るフードドライブを2021年1月11日～15日までの5日間、平和堂本部において従業員を対象に実施しました。集まった食材や日用品はフードバンクひこね様に寄付させていただきました。



▲寄付された食材や日用品

環境負荷低減を目指して

プラスチックごみ削減への取り組み

プラスチック製買い物袋有料化の義務化スタート

プラスチックごみの削減を目的に省令が改正され、2020年7月1日よりプラスチック製買い物袋の有料化が義務化されました。それに伴って平和堂グループにおいても全店舗でのレジ袋の有料化がスタート。同時にマイバッグ・エコバスケットの持参を推進するキャンペーンも実施しました。

また、亀岡市においては「プラスチック製レジ袋の提供禁止条例」が2021年1月1日に施行され、有償無償問わず提供が禁止されました。平和堂では紙製の手提げ袋などを準備してその条例に対応しています。



▲エコバスケットでのお買い物

2020年度レジ袋削減枚数と原油換算のデータ

レジ袋

19,115万枚



⇒ ドラム缶

15,444本分



原油を節約

